

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区桜2丁目18番3号
園名	桜保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・想像力や探求心が膨らむような魅力ある園庭づくり
- ・子どもたちが主体的に体を動かしたくなる環境づくり

<テーマの設定理由>

- ・子ども自身が主体的に遊びを選び、取り組めるような園庭をつくっていきたいため
- ・「なぜ?」「どうして?」から「知りたい」「やってみたい」という知的好奇心や探求心を育むために、持続可能な園庭の自然環境を充実させ、子どもたちの自然との関わりを広げると共に、想像力や探求心が膨らむような環境を整えたいため
- ・巧技台だけでなく、様々なもので身体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、身のこなしを豊かにしていく環境を整えたいため

2. 活動スケジュール

- | | |
|-----|-------------------------|
| 7月 | ロープアスレチックで継続的に運動遊びを楽しもう |
| 9月 | テラスの観察ワゴンを使って調べてみよう |
| 11月 | 各クラス栽培物を育ててみよう |
| 12月 | マルチパーツを使って遊ぼう |
| 3月 | 自然物を使って色水遊びを楽しもう |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・顕微鏡、図鑑、虫眼鏡などをまとめた観察ワゴンをテラスに設定。並行してテラスにゆっくりできるコーナーを設置し、子どもたちが身近に調べたり観察したりできる場所として活用していく。
- ・園庭遊具の中にロープやマルチパーツ等を導入し、普段の園庭保育の中で子どもの姿に合わせておろしていく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① ロープアスレチックで継続的に運動遊びを楽しもう
- ② テラスの観察セットを使って調べてみよう
- ③ マルチパーツを使って遊ぼう
- ④ 自然物を使って色水遊びを楽しもう

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

① 園庭に設置してある上り棒にロープを張り、アスレチックコーナーを設定。又、乳児向けに鉄棒にロープブランコを設置。年長児が積極的にやる姿の様子に刺激を受け、年長以外の子も自分から挑戦する姿が見られていった。よじ登ったり、くぐったり、ぶら下がったりなどたくさんの経験を積む中で、全身のバランス力や筋力が育まれると共に、「やってみよう」というチャレンジする気持ちの育ちも見られている。高くのぼれた時、「先生、見て！」と嬉しそうに呼ぶ姿からは、達成感や自信が感じられた。

② 園庭の土を掘ると小さな幼虫を発見した年長児。早速テラスに設置してある観察コーナーで顕微鏡や虫眼鏡を使って見てみることにした。「毛が生えてる！」「きもちわるい」「穴もあいてるよ」など、初めて見る幼虫の細部に驚いた様子で、口々に発見したことを教え合う姿があった。見ている内に「これ何の幼虫？」という疑問が生まれ、図鑑を取り出して自分たちで調べて見ることにした。「これじゃない？」「こんな色じゃないよ」「きっとこれだよ」と、実物と図鑑を見比べたり、予測を立てたりしながら興味関心が広がっている様子であった。

乳児クラスでは虫眼鏡を使っでの探索がたのしくなっている。幼児クラスの姿が憧れとなっており、首から下げるだけでも嬉しそうな様子である。園庭に落ちている石や葉っぱでさえも、子どもたちにとっては大きな発見になっており、虫眼鏡を通して見る姿からはわくわくした気持ちが伝わってくる。何かを発見した時、「虫眼鏡で見てみよう」と自分から持ってくる姿も生まれてきている。虫眼鏡は虫を見るものと思っている保育士の思いとは、想定外に子どもたちは洋服やタイヤ、絵本、自分の手などを見ている姿があり、子どもの興味の幅の広さを感じた。

③ マルチパーツを取り入れた最初の頃、「こうやって使うよ」とあえて言うのではなく、「使い方は無限大」とだけ伝えてから子どもたちにおろしていく。幼児クラスを中心に自分で色々試してみながら家や乗り物を作ろうとする姿があり、「救急車作ろう」「お化け屋敷にしよう」など、実際に使ってみる中でイメージを膨らませながら作る楽しさや、友だちと協力して作る経験へと繋がっている。作っていると途中で

崩れてしまうこともある。そんな経験を積み重ねて行く中で「ここに何も(支えが)ないからだ」「これすぐ倒れるよ」など、遊びの中での気づきや文化が広がってきている。乳児クラスもそんな幼児の遊びを見て中に入ってみよう、座ってみようと試し自分たちも遊具を持ってきて遊びを展開している。子どもたちは徐々にマルチパーツを使いこなしてきたことで、多くの子どもたちが扱うことで、数が必要になってきて、「あと１００個ほしい」とつぶやくほど楽しんでいることが感じられた。

④ 自然物で身近に遊べるよう、園庭遊具にすり鉢とすりこぎ、茶こしを取り入れ、幼児クラスを中心におろしていった。早速、園庭に落ちている花びらを使い、水と混ぜながら色水遊びが始まる。「水を入れると色がジュースみたいになった」「同じ青でも色が違う」など、混ぜるもので色が変化する事や、その違いに気づき、友だち同士で教え合う姿があった。「これ混ぜたら紫になるかも」等、自分たちで予測して試してみる姿もある。乳児はその色水を使ってジュースごっこへと遊びが広がっていった。

①



②



③



④



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ① 経験を重ねていく中で、全身のバランス力や筋力が育まれると共に、「やってみよう」というチャレンジする気持ちの育ちも見られている。設置する場所が限られているため、どうしても設置の仕方がマンネリ化しつつある。職員も巻き込み、結び方や設置の仕方を共有する中で、遊び方の幅も広げていきたい。
- ② 大人から教えてもらうよりも、実際に自分で調べたり、発見したりした経験が更なる興味関心に繋がっていくと感じる。最初から答えを教えるのではなく、子どもたちの「なんでだろう?」「どうして?」という不思議や疑問に寄り添い、一緒になって発見を楽しんでいく姿勢が大切だと感じる。顕微鏡や図鑑をおろしたタイミングが秋ごろだったため、来年は生き物がいる時期に活用できることを期待し常時テラスに置いて、子どもたちが身近に手にとれる環境を継続していく。
- ③ 大人がリードしすぎるのではなく、子どもたちが主体となって自由に出せる環境が色々な発想やアイデアに繋がっているのではないかと。乳児がいる時の使い方、どこまで大人が付くのか等、使用していく中で職員の中でも疑問や不安が出てくるので、その都度声に出してすり合わせを行っていった。
- ④ 自分たちで自由に試めす事ができるコーナーが継続的にあることで、初めは興味が薄かった子も関心をもって自分からやってみる姿へと繋がっている。枯れてしまった花びらからでも遊びが広がる事を知り、どんなものが遊びに活用できるかと、園庭を探索する事も楽しくなっている。絵具や食紅では出ない自然物ならではの色や匂いがある事も魅力になっている。